夕刊 磐城新聞
八月十五日發行
發行所　磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

レビュー 海は歌ふ

岡　浩

二

冬助　これ白金懐爐と遊ぶのか、どうも有難う。いづれまた（不得要領な事を言つて、氣まり惡さうに歸つてゆく）みつちやんさいなら（出口の所で怒鳴る）

みち子　あら歸るの（立たうとしたがやめる）

とみ子　面白い人、これ達ちやんに似合ふかしら！（トランクから着物を出す）

みち子　どれ、こんな綺麗なの、こわいみたいね！

（さう言ひ乍らも次第に熱狂的な樣子になつて帯や着物を身につけたり外したりする）

（とみ子はそれを微笑しい氣持ちで見る。その横顔を春吉うつとりと見詰めてゐる）

舞臺次第に暗くなる（暗轉）

二景

海に近い砂丘の夕ぐれ松が二本右手よりに立つてゐる

（何か歌ひ乍ら子供達が五六人踊るやうにして横切つてゆく、その後から冬助と春吉出て來る）

春吉　みつちやんとこへゆくのか

冬助　いや

春吉　いゝよ、いゝよ、遠慮する事ないさ。君は太陽の樣にみつちやんを愛してんだからな

冬助　いやあ、そんなことならう。

春吉　兄弟にならう。二人は今日から仲良く兄弟にならう。君はみつちやんに戀を打あける、俺はとみちやんに、兄弟だ、猫もくれろ、みんなくれちまをう

冬助　なにを、變な事言ふな、俺あみつちやんなんぞなんともおもつてないぞ

俺だつて、俺だつて

（とみ子、レヴュー團の男優と手をつないで來る。二人素早く松の木の蔭に隠れる）

とみ子　ねえまあ坊、妾この機會にお父さんに願つて結婚を許して貰ふつもりよ

男　そうだ、僕もその積りだつたが、トミーがどんなつもりか分らないから

とみ子　甘い事言つてらあ　するとこの巡業は妾達の蜜月旅行になつちまつた譯ね

男　全く（感激的に）君の故郷は何もかも素的だ。太陽も海も星も、そして君も（二人抱きあふ）

とみ子（男とはなれながら！）早く、お父さんにお願しませう

男　うん早く行つて許してもらはう（去る）

（冬助、春吉、夢遊病者の様にその後を追つて中央に出る）

冬助　おい春吉、とみちやんを戀してるつて言つたな、後を追つかけて、さう言つて來い。俺あこれからみつちやんとこへゆかう。それから兄貴、猫も貰つたよ

春吉（ぼんやり立つてゐる！）

冬助　おや、誰か來たな（暗くなつたので耳をすまして跫音を聞く）みつちやんらしいぞ

濱の娘

草野村　小秋

寄せて碎けて、岸打つ波に
揉まれ揉まれて、育つたわたし
なせにしほれて、泣くぢややら

涙かくして、白帆を眺め
主の小舟が今遠く
港を出て、何處へゆく

沖へ沖へと離れていつた
主の小舟は風まかせ
波にゆられて、遠いかげ

渚に殘つて、見送るわたし
遠い帆影を何時までも
泣いて見送る濱娘

濱は沖風波間を越えて
潮の香りは心地も良いに
主の出舟がなぜ悲し

社會の今日

○

いにしへの寧樂の宮居の立ちどころ、野菊すがれて咲けるさびしさ　石井直三郎

膝枕紙白粉で撫でられる　美津夫

磐城歌壇

新妻久滿夫選

病床吟抄

佐川和弘

◎房總の國近き濱に風邪氣味のからだいたはり十日すごしつ

○梅散りし熱海の濱に宿りしをかぎろひの野に思ふたまゆら

○海面（うなづら）を吹きあぐる梅雨の○さりしの病みて衰ろふ肌に尖けし

◎朝霧のひくゝなづさふ菅原の草ふむほどに病癒えたり

小評　第一首一句二句受けられ易いが少し氣取り過ぎた語である。第二首はこの作者にしては惜しい。第三首○の脱字一寸判讀し難し。第四首『朝霧の』の歌に於て『菅原の草』はやはり『草原の草ふむ云々』とした方が強い。只作者は同語の重用を避けたのだらうが、やつぱりあいまいである。

潮聲硯靜抄帳

丹羽翠雨

鮎釣りや水見てゐれば水暗らく
釣り上ぐや大いなる鮎の背くろぐ
鮎に夕べ澄み來し瀬音かな
しづかなる水の翠色や鮎飛べり
夕されば野茨の香や鮎の淵

鮎漁　赤羽松堂

鮎漁の落ち合ふ腕の瀬舟かな
打ちのぼる投網に鮎のきらめきぬ
岩の鼻より二た瀬に岐かれ鮎を狩る
相默して鮎釣人の並び居り
その川に鮎釣る人の今日もまた
[illegible]

鮎の魚籠さげて荒つ瀬越えにけり
囮鮎いまだ闘志おとろえず
鮎釣りの蚊針つくろふあゆの宿

○

あゆ宿のあゆのフライに夜の更くる

○雜詠　武門

雷や子をしかと抱き檻の猿
有合すものを枕に三尺寢
松原の中に灯りぬキャンプの灯
朝霧にキャンプの煙りとけこみぬ
夏霧になかばかくれし赤井嶽
紫蘇匂ふ夕釣の膳に向ひけり
夾竹桃入陽にそまる廠の壁
睡蓮の一日ひらかぬ曇りかな
梅雨寒しをゝる野菜買ひにけり

8月16日

△始めて種痘を試む（嘉永二）△瀬戸内海にて汽船衝突沈沒―十八名行方不明△時局匡救豫算閣議で正式に決定（昭和七）

新刊紹介

△溪流第一卷三號　歌、俳詩、小唄、民謠其他若き同人の輝かしいクリエートを剩さず輯錄した雜然混然たる綜合誌、自己陶酔乍ら面々の眞摯なる態度は多とすべきものがあるも錄輯振り其他尚は一段洗練の餘地無しとせぬ（非賣品川前村柳立一五一其會）

講談　浪人長屋　(166)

日岐武志作　月草道子畫

刺青

『あたしはもう、蠍獺さまにゝ會はす顔がないやうな氣がして』

靜香は、しよんぼり、うちしをれた

『ばかなことをいつちやいけねえ。刺青位えなんでもねえでやすよ。おまけに、自分が覺えのねえ刺青だもの、そんなことを、とやかくといつて、靜香さんをつれなくするやうな、蠍獺さまぢやねゑでやすよ。つまんねえ弱氣を起こすもんぢやねえですよ』

『でも、ね……』

白い、うつくしい顔にとりかへしのつかぬやうな愁ひが浮んだ

『靜香さん』

と、今までだまつてゐた權吉

『ふしぎなことがあるもんだ。おいら今の刺青と寸分ちがはぬものをいつか見たことがあるのだよ』

『ねッ、何處で――』

『やッぱり、たれかの足の裏なんでやすかね』

靜香と太七はおどろいて訊ねた

『さうだよ。やつぱり女の足の裏なんだよ』

『おや、やつぱり女の――そして誰なの。あたしが知つてる人なの』

權吉はうなづいてみせた

『誰？』

『おどろいちやいけないよおいらの姉分、お蝶姉さんさ』

『えッ、それはほんとうなの』

『うそいつたつて、しようがないよ。忘れもしない去年の夏のはじめおいらとお蝶姉さんとは、憎い玄内を探すために、蛇をつかひながら木曾街道を下つてつた時だよ』

權吉は、ちよいと言葉を切つて

『藤島宿で泊つた時さ、風呂から上つてきたお蝶姉さんは、氣がくるつたやうにおどろいて、おいらにみせたのは今みせて貰つた刺青の蜘蛛と、そつくり其の儘なのだ』

『まあ……』

靜香は、みぶるひしながら權吉の顔をみつめた

『その節の晩は、須原宿で泊つたんだが、その時も風呂に入つたが、たしかに蜘蛛の影も形も、なかつたぞ。お蝶姉さんは、はつきりいつてゐたのだがね』

『をかしなことが、あればあるものね。お蝶さんとあたしとが何か、特別の關係があるやうにもおもへるぢやないの』

權吉は、默つて何かふかく考へこんでしまつた

×

刺青師文事、文三方の表格子をガラリとあけて

『ごめんくださいまし』

と、おづおづと奥へ聲をかけたのは靜香であつた

靜香が、何用あつて刺青師をたづねたか――いふまでもなく、左の足裏にきうに浮出した、怪しいくもの刺青を、なんとかして元どほりにしたいばつかりに人目を忍んでこつそりやつてきたものであつた

――刺青師に相談して、診てもらへば何とかなるかもしれぬ……。

かう、おもつたからである

來客らしく革緒の草履が一足そろへてある

二階の方で、將棋の駒の音らしく、パチリ。パチリ、パチリ、ときこふる。文三はやもめ暮らしなので、誰かを相手に棋盤を圍んでゐるものとみゐたが、三度目の靜香の聲がやうやく通じたらしく

『おーい』

と、いふぶつきらぼうな返事がして、階段に足音がすると上り口の障子が開た

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

新盆戒名入及岐阜
提灯各種大勉強
提灯　角形　二、五〇ヨリ二〇、〇〇マデ
瓜形　一、八〇ヨリ　六、〇〇マデ
尚御好により値も品も色々に調製致します。
御話下されば早速見本持参御伺致します。
平町四町目
スガノヤ提灯店
電話九五番

●新盆の戒名入提灯
例年の通り御安く
御注文に應じます
弊店の提灯が……體裁が良くて値段の最も安い事は自分で一切の製造仕上げをする事と場所が不便の爲で有ります。
昭和九年八月
平町才槌小路（千葉辯護士前）
金子提灯店

絹張行燈、牡丹行燈、都行燈、紋天行燈、猫足行燈、變り形、新柄澤山取揃へました
お盆提灯大賣出し
平町四丁目角
菅野屋商店
電話一五七番
◎遠近に拘らず見本持参致します

父白鴻院新盆佛事上小川村生家に於て相營み可申候處誠に乍勝手供物一切辭退申上候
白井一郎

父普光院　新盆に相當り候處時節柄甚だ勝手ながら提灯及供物等堅く御辭退申上候
平町田町五
熊谷豊子

磐城鐵工機械同業組合

電話六四〇番
皆様のタクシーへ
此度は夏にふさはしいすがゝしい色彩の……
ニーアクション装置
新車が入車致しました
自動車の御用命は電話六四〇番を御呼び下さる皆様を新車と共に從業員一同御待ち申て居ります
車も揃ひましたから遠乘の御用命には特に御相談に應じます。
平町二丁目
尼子タクシー
電話六四〇番

暑中御伺
改築に付休業中で御座いましたが愈々竣功本日より開業致す事になりましたから倍舊の御贔屓を御願ひ致します。
平町二丁目裏
鳥料理　初音
電話二三六

外科全般
（特ニ内臓外科、泌尿、性病科）
醫學博士　渡部義夫
小兒科、内科
女醫　渡部きい
入院應需
平町役場前、電話（二七七）
渡部外科

産科
婦人科
花柳病科
午前　宅診
午後　往診
入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

開業
診療科目
一、歯科一般
保存科、補綴科、繼歯架工科
歯列矯正科、小兒歯科、歯槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野歯科醫院
院長　日本歯科醫學士　中野悳次
日本歯科醫學士　西川誠
平町田町（松月堂向ヒ）　電話五〇九番

吸入用酸素　純度99%
度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
計量器
体温器
寒暖計
◎秤ノ取緒・垂・糸・替致シマス
關内藥局
電話四〇番

氣管、食道科、
耳鼻、咽喉科　專門
平町南町（元眞木辯護士跡）
増田耳鼻咽喉科醫院
電話四八二番
（入院隨意）

新秋の宵を涼しく 若竹に泳ぐ七彩の波
傳統を破つた今年の棚機

牽牛、織女が天上に結ぶ戀！。年に一度大ビラに逢ふ瀬を娯しむ七夕を地上の人々は祝福する。從來平町で七夕飾りの本場は官能の街新田町がそれで隨分手間と金に資を盡くした出し物は風涼しい新秋の宵を彩つてその邊に漂ふ桃色氣分に一層の風情を拍車したものであるが既報の如く國道の鋪裝に名物盆の松焚きを奪はれた三丁目の尖端老童連が之に代る人寄せの行事として今年以來町を擧げて七夕祭りを旺ならしめやうと張り込んだ結果、見ものは今度から斷然之の界隈に移動したかたちである、卽ち早い處では昨夜逸早くトップを切つたなかや洋服店をはじめ、今朝になつては大人三四人の大掛りで太い孟宗竹を押し立てた角治株店、其他等、等。一方田町では白菊酒店が之亦今朝早々の飾り立て、その外各町內を通じて目通り七八寸から小一尺位の今年竹を横たへて夫々自慢の趣好を凝らして居るが晝過ぎ頃にはズット出揃ふ事であらうし、殊に新裝の鋪道に紅紫の紙籠楚々として泳ぐ三丁目附近の美觀は眞に目も綺なるものがあらう（午前九時記）

七夕風船提供 平町三丁目なかや洋服店では今明日の七夕祭に際し顧客お子さん達に『七夕風船』二千個を配ると

火花を散らす 鐵道代議士選擧
二十九區の定員三名を 來二十二日平驛樓上で執行

水運管內第二十九部（平驛機關庫、保線、檢車所、車掌所、湯本、綴、赤井、小川郷）各驛の第八回鐵道現業委員選擧は來る二十二日午前八時より午後四時迄平驛樓上に於て後藤驛長管理の下に約三百名の有權者により行はれるが目下平、湯本、小川郷各驛間定員三名の所へ既に平驛より中根秀四郎、加藤長作、綴―郡司春三郎、湯本―佐藤宏四氏の出馬あり、あと一、二名出るものと觀測され而も棄權者殆ど無く非常に激戰を豫想されて居るが尙今十五日水戸運輸事務所より嘉賀庶務主任來平その狀況を視察したと

ラヂオ体操
今十五日出席數

平ラヂオ体操の會今十五日の出席人員は各小學校招集日の關係で昨日より二百六十一名の減で總計二千四百六名、延人員三萬六千二十四名である
（第一校會場）第一兒童五六〇 第二兒童九七〇 その他學生生徒三七 小兒三九 大人九一 その他四 計一、七〇一 延人員二五、二〇一
（第三校會場）兒童學生五七四 その他一般一三一 計七〇五 延人員一一、三二一

幹旋兒童成績調査
平紹介所で各方面に照會

平職業紹介所では去る五年以降小學校卒業者の斡旋兒童に就き近く左記諸項を調査し今後の參考に資する事になつたと
△仕事の進步程度△手當若くは給料△貯金高△慰安方法△讀書及書籍種別△職業に對する感想△其他の希望

人命救助表彰

植田町本町佐藤茂（二六）君は去月十七日同町植田地內の右川に精神異狀から投身せんとした小宅海老藏（六五）を救助した廉により昨十四日畑山知事から表彰された

平驛取扱 貨物動態活潑
本質的好景氣の前兆か

平驛今月中の貨物動態を見ると例年になく活潑な動きを見せ中にも夏期は始ど輸送を見ない木炭が先高を見越された爲か既に約八〇廸木材も亦前年八月中五四廸が既に一七五廸を何れも東京方面に出て居る、尙昨年貨切四車を出した西瓜は天候に祟られた不作から一車も出ず、到着では米が昨年八月二四三廸であつたのが既に二〇五廸を算し如實に米不足を物語つて居るが殆ど臺灣米のみである、右に關して當局では例年に比較し格段の活潑振りから本質的な好景氣到來の前兆ではあるまいかと觀てゐる

小麥の 共販日和見
賣り急ぎを見越し 買値振はず

郡農會の小麥共同販賣は今十五日行はれる豫定で出荷中の五百を始め、神谷、勿來等計千俵以上に上つたが天候關係と盆間際の賣急ぎを見越し買値安く最高五圓四十五錢（前回七十錢）のため止むなく中止したが當局では相當値上りする迄は共販は開かない意向であると語つて居る、尙今年度小麥の共販俵數は約八千（昨年四、五六一）に上るものと觀測されてゐる

處により平作以上
結局は一割三分減 平町の米作豫想

平町役場が縣からの照會により調査した今年度米收穫豫想高は
平年作又は同以上三五町步、七割以上平年作未滿五十町步、五割以上七割未滿十町步、三割以上五割未滿二町步
合計九十七町步、收量千七百五十七石で平年作の二千二十七名に比し二百十石の減收を豫想されて居るが過般來の天候不順及之に因る虫害等に反し平年作又は同以上が三十五町步もあるはまさに奇とすべきである

平町土木委員會 明後十七日午後一時から左記諸件を協議する
町道占用願（佐藤三平氏出願）廢道敷地處分（松崎堅伍氏外六名出願）

石城教育會部會主催 夏季講習會
栗原氏の新綴方論に 出席多數を豫想さる

石城教育會主催の夏季講習會は既報の如く來る二十七日より三日間平第一校で敎材王國編輯主任東京第四岩淵小學校訓導栗原登氏を招き氏の研究になる『新綴方敎育論』に就いて講習あるが郡內は勿論各方面から相當出席あるべく豫想され講習種目は次の如くである
．綴方敎育の新思潮及價値、創作指導、鑑賞と觀照、詩の指導、低學年、中學年、高學年指導の實際、指導體系、敎育の敎師論

農家に公休制度
其他各種實行事項を定め 更生を急ぐ渡邊村

今年度經濟更生村に指定された渡邊村では一昨十三日更生の大綱を決定する委員會を開いた結果
四割乃至五割增收の二毛作奬勵、共同購買、冠婚葬祭の冗費節約、盆踊りの唄を統一
其他各方面に亘つて具体的な方針を決定した、尙農村としては例のない公休制度を左の如く決定、明十六日の七夕祭には第一回の興村デーとして晝夜全村をあげ前途を祝福する事になり尙村役場に於て更生第一步の協議會を開く事になつたと
△部落半休日、舊一日、同十五日、春秋期皇靈祭
△部落全休、四大節（全村赤飯を焚いて祝意を表し學校に集合記念式を擧行）興村デー（舊七月七日）全村民慰安會

經濟更生宣傳 今年度經濟更生村に指定された大野村では十七日、草野村十八日、平窪村十九日夫々經濟更生映畫及講演會を催す

投書歡迎 檜
盆三日の混雜緩和

◇昨年の舊盆に其筋が大英斷を以て札つきのナラズ者を檢束し市內の靜謐を保つ上に於て非常な好結果を得た事は吾人の記憶に新たなる處でお蔭で緩くり踊りを見たりカフェーで寛いだりする事が出來たのであつた
◇今年も夫々計劃がある事と想像されるが、何を措いても街のギャング丈けは徹底的に御取締りを願ひ度い、全く踊りの最中などに斬つた張つたの物騷な事が持ち揚つたりすると全町の盆氣分を悉皆打ち壞して了ふし女子供などはうつかり外へ出せなくなる
◇芋の子を洗ふ樣な大混雜に限りある警察の手丈けでは勿論間に合はぬだらうから此の場合は消防、青年團が準警察官として單なる雜踏整理などから一步を進め前記不良退治などに最大の機能を發揮して頂き度い
◇最後に表通りの各商店などに對する希望であるが平常でも同じ事乍ら殊に盆三日は店頭の道路にハミ出して商品や自轉車リヤカーなどを置く事を絶對に愼んで貰ひ度い、斯くして盆の混雜は幾分緩和される事であらう
（驛前盆踊り禮讚生）

北陸救濟金
町當局の百圓纏る

平町役場取扱ひの北陸地方水害義捐金は既報の如く各區に總額百圓を割當て募集中であつたが愈々今十五日纏つたので一兩日中に送付する筈、其後の分左の如し
長橋、材木町、鍛治町各三圓五十錢、一丁目、五丁目各五圓、新川町、才槌小路各四圓、胡麻澤、立町、南白銀各三圓

電話買ひ度し（姓名在社）

自轉車鑑札手數料 平町役場に於ける去る四月以降去月末迄の自轉車鑑札再下附手數料は計六圓三十錢であると

舊盆を迎へ兼ねる 貧しき人々を救ふ
けふ役場で方面委員協議

平町役場では今十五日午前十時から町內方面委員を招集、議事堂に於て舊盆の貧困者救濟に關し種々具体的協議をなしたが例年の如く盆前一週間位戸別を訪問金品の寄附を受ける事になるらしいと

粋な月下氷人が 濱へお出まし
熱砂に戀を描き出す
海で拾つた話―中―（鴻以智）

ドドドドドーッと碎ける波、波風に千切られ千切られ飛んでくる笑ひとさんざめき、均齊のとれた肢体をグッと伸ばしてクロールに飛沫を上げ、巧みなブレストに浪のまに／＼浮動する人魚の群。齊藤貢等々、色彩のオンパレードだ。そして火の如く熱した砂濱は明らかに東下りのインテリ●ガールと、歸省中の學生のお坊ちやん達とがヘゲモニつて了ふ
×
『オーイ』
『何かある？』
『面白い話があるよ』
『Y談だらう』
彼女達のグルッペは、忌々しそうに眺めるドラ息子達を尻目に砂を蹴つてハシヤギながらザンブ／＼と水の中へ入つて行く。
×
頭を中心にビーチパラソルの下に圓を描く、みんな顏を見合はせて何事か話してる
『あ〻ラそおオ、私戸塚よあなた早稻田へ通つてるの？』
『戸塚の何の邊さ』
『……』
『赤門？文科？いいわね、ステキぢやないこと』
『いやそうでもねにや』とこの男ヤニ下つてせ〻ら笑ふ、案外甘い
濱でそうして遊んだ夜は必ず彼氏等のグルッペは彼女等の下宿へ押しかける
毎日／＼かうして遊んで居る中にきまつて幾つかのカップルが出來上る
すると來年は必ず其中の幾人――まあ前年盛んにはしやいで居た彼氏と彼女の幾組――かゞ見られなくなる
そして實殘りは又新しいのをタンマリ連れ込んでやつて來る、つまり出雲の神樣の臨時お出ましだ。だがあつぱれダンディを氣取る彼氏達二學期は勿論……三學期のラストスパート危く效を奏して何とかブラ下つて行くのは上々、先づ殆ど……。『そんな筈がない』とカン／＼になつた親爺がアタフタと上京すると何時も金をセブる時の手紙の住所には既に居ない！、かて〻加へておかみさんに猛烈に下宿代の催促をされる、やつと探しあて〻見るとこりや又何うした、彼も彼女は蚤でも寢てる、墓口の中には彼女の寫眞と既に流れてしまつた質札としか無いと言ふ。イヤハヤ

入山に設けられた 安息和樂の殿堂
八仙俱樂部近く開場

入山炭鑛では去る四月の山神社造營に際し舊の山俱樂部に代る集會所として子種池上に壯麗なる八仙新俱樂部を建築去月下旬落成の豫定であつたが先頃の變態氣候に祟られ壁の乾燥意の如くならず開場は今月下旬頃になるらしいが右は四十四畳の大廣間に一間の廊下を繞らした採光通風理想的の建物で尙娛樂機關として圍碁、將棋、玉突場など地方稀に見る完全なものである

産畜組合長再選 安島氏受諾

石城產馬畜產組合では既報の如く昨十四日午前十時から平團体事務所樓上に組合長改選に關する評議員會を開き午後一時からの臨時總代會に於て安島現組合長を萬場一致選任したが同氏が固辭したので四區長及評議員、議員外一名委員を擧げ交涉した結果受諾した

寄附表彰一束

貝泊村御所脇虎吉氏は三月中田入小學校貝泊分敎場の建築費に金二百圓を寄附し此程縣知事より褒狀を下賜された、又入遠野村大谷長藏、湯本町鈴木稻實、平町武田コウ、內郷村杉山今朝吉、川部村小野啓平の各氏は日本赤十字社福島支部に各二百圓を寄附し同樣此程褒狀を下賜された

取消 一昨紙月曜論壇『嗤ふべき町統計』中、兒童用自轉車三輪車各數臺、云々は筆者の錯誤に出でたる記述に就き之に關する所論を取り消す

鳥好きに罰金 好間村上好間字稲荷下一三理髮業今野秀吉（四〇）は六月五日頃同家の山林中から翼を傷めた保護鳥一羽を拾ひ、又去月五日頃同山林中で附近の子供に虐められてゐる鶯の雛五羽を讓受け飼養してゐた事發覺此程平區より情狀酌量の上略式で罰金十圓に處された

宿料を踏む 四倉町字新町松本屋旅館に去る九日來滯在中であつた自稱山形縣最上郡新庄町字五七町三〇三佐竹一郎（三〇）は宿泊料六圓餘を踏み逃走四倉署にて行方捜査中

警務課長異動

縣警務課長 田中眞次
任岡山縣事務官
警視廳警視洲崎署長 松岡一郎
任本縣警視補警務課長

十六日
日出 五、〇〇　月出前 一〇、二三
日沒 六、三一　月沒後 九、〇四
滿潮 前八、三五 後八、二五　干潮 前二、一五 後二、一五

新曆木曜 八月十六日
七月七日 己未 先勝 閉 井宿

諸判定慈響 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神讃館
▲一白の人 行動が束縛せられて意の如くならざるの日▲二黑の人 緩む心を引締めて活動舞台に乘り出すべし▲三碧の人 人に接して溫和なれば力を添へられ好轉す▲四綠の人 運氣引立たす一家の和合を旨とせらる丶日▲五黄の人 働くに從ろ身方なし自ら幸運に向ふべき日▲六白の人 情に溺れず理に馳せず臨機の處置を採べし▲七赤の人 苦勞は薄紙の如くはげ落悅の湧き上がる日▲八白の人 物事思ひ通りに運ばれども傲かず進めば吉▲九紫の人 苦しみ轉じて喜びに向はんとす起業開店吉

廣告

御中元贈答用品陳列
シヤツ、靴下、ワイシヤツ、ネクタイ、タオル、半布、石鹼、化粧品詰合等々
各實用品を豐富に取揃えて…………
特に便利な商品切手を御利用下さい
ヤルツ 電一四〇

磐城名物 靈峰羊羹
小川郷驛前 平屋賣店

天地に滿ちる旺盛な活力素
夏は行け！ 野に！山に！海邊に！
三四年型デラクスセダンで
三井タクシー 電話六八五番

小店員數名募集
十三歲より十七歲迄
心身强健なるもの
獨立の際は必ず援助す
（詳細は磐城新聞社宛照會の事）
東京市日本橋區大傳馬町三丁目壹番地貳
內外各種糸物商
株式會社 藤掛商店
電話浪花(67) 〇三五一番 二四二四番 二六四一番
振替東京三一四〇番
電信略號(7) 受信登錄(トウヨウフヂイト)

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院 電一七〇番
（入院隨意 病室完備）

內科一般
川井安子
川井內科診療所
平町南町六五（舊居）
電話二四三番